

僕はどうなったんだろう

実のところ、けいちゃんは本気で僕を
かっこいいと思っていると、僕は思った。

本当は、けいちゃんではなく、
八幡のあの子が、この部屋に今いたらなあ
と、その時、僕は思っていた。

その心が見えたのか、けいちゃんは、

机のそばの写真を見あげながら、
「よっちゃんも、女の人に関心持つ様になったのか。」
と、急につぶやいた。

女は男より、ませている為か、

その言う態度が、大人びっていて、
僕は何だか、子供扱いされている様で、
気にいらなかった。

すると、けいちゃんは続けた。

「去年の、大文字の夜の事、覚えてるか？」

近所の東海道線の橋の上から、

送り火を、皆で、一緒に見てた時なあ。

あの時なあ、うちの学校の女友達も来ててなあ、

よっちゃんの姿を見て、素敵、素敵と言って、

うちに、あの人誰やと、しつこく、聞くのよ。

ねえ、紹介して、紹介してと、せがまれたけど、
迷惑になると思うて、全部、断ったてあげたよ。」

「ああ、そうか、おおきに」と、僕は笑いながら返事した。